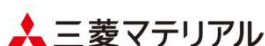


2026年3月期決算補足説明資料

2026年5月13日



CEOの田中でございます。

本日は、弊社決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

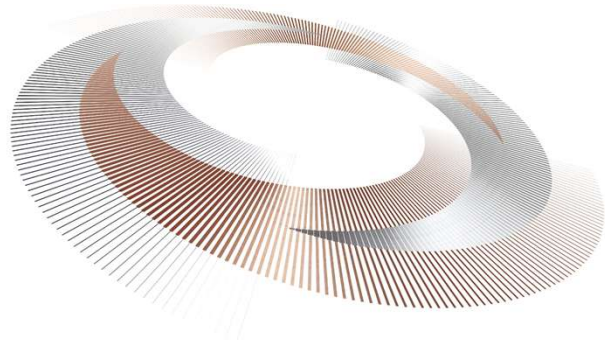
2026年3月期は、事業環境に不透明感が残る中ではありましたが、私としては、昨年11月に公表した中期経営戦略（2026～2028年度）において掲げた「資源循環ビジネスで未来を創る企業へ」という方針のもと、将来成長に向けた種まきと、事業構造転換の方向性を明確に定めることができた一年であったと感じております。

資源循環による収益確保には一定の時間を要することを前提に、その成果が現れるまでの期間においても収益基盤を確保すべく、構造改革の前倒しと既存事業の収益力強化を並行して進めてまいりました。

その結果、資源循環へと軸足を移しながらも、構造改革と既存事業の収益力強化を両立させることで、収益の質および資本効率の改善という点で着実な前進を遂げるとともに、構造改革についても大きな目途をつけることができました。

本日は決算説明会ですので、戦略の進捗状況については来週の別の説明会に譲るものとし、ここからは2026年3月期の業績についてご説明いたします。

まずは、決算補足説明資料4ページのエグゼクティブサマリーをご覧ください。



人と社会と地球のために、循環をデザインし、持続可能な社会を実現する

限りある資源を大切に使うために、使用済みの製品を資源として再生させる。

そこに新たな価値を付加し、再び社会に送り出す。

その循環のプラットフォームを構築し、自らプレイヤーとして価値を創出する。

そして未来に向けて、持続可能な社会の実現に力強く貢献し、循環の輪を広げていく。

目次

1. エグゼクティブサマリ	P.4
2. 2026年3月期実績	P.6
3. 2027年3月期予想	P.11
4. 株主還元方針	P.16
5. 参考情報	P.17

事業環境 ・ 予想前提

- **自動車関連は**、中国・東南アジアで需要好調が続く一方、日米欧は概ね横ばいから緩やかに回復
- **半導体関連は**、AI関連需要は引き続き好調なものの、その他用途については低調に推移
- **中東情勢の悪化による影響は**、原油価格への影響は軽微と見込む一方、その他は不確実性が高く、業績予想には反映せず
- **銅精鉱の購入・電気銅等の販売に係る事業統合影響は**、現時点で想定し得る範囲を業績予想に反映

公表類

中期経営戦略（2026～2028年度）の推進に向け、取り組みを加速

- 小名浜製錬所の銅精鉱処理縮小に伴う製錬設備の稼働停止を決定^{*1}
- ReElement Technologies社への資本参加を決定^{*2}
- 伸銅品事業の生産体制最適化に向け、大阪製作所が始動^{*3}
- 高付加価値シール製品の提供に向け、熊谷第二工場を竣工^{*4}

*1 2026年3月25日 固定資産の減損損失（特別損失）の計上及び子会社の異動（特定子会社化）に関するお知らせ

*2 2026年3月31日 ReElement Technologies Corp.の株式取得、および日米協業の覚書締結に関するお知らせ

*3 2026年4月17日 三菱マテリアル伸銅品事業の「大阪製作所」が始動 一堺・三宝統合を記念し初荷式を開催

*4 2026年4月17日 三菱電線、シール事業の成長を支えるスマートファクトリー「熊谷第二工場」が竣工

事業環境として、自動車関連市場は、中国・東南アジアは引き続き好調を継続しておりますが、日本・米国・欧州では需要が力強さを欠き、概ね横ばいで推移しております。半導体関連市場は、AI関連需要は引き続き好調ですが、その他用途については低調な状況が続いております。

なお、中東情勢の悪化については、原油価格による業績影響は軽微と見込む反面、その他は不確実性が高く、本日公表の2027年3月期の業績予想には反映しておりません。

また、銅精鉱の購入・電気銅等の販売に係る事業統合影響につきましては、今回、現時点で想定し得る範囲を業績予想に反映しております。

これまでも継続的にお知らせしている中期経営戦略（2026～2028年度）の進捗につきましては、この第4四半期においても、小名浜製錬所の銅精鉱処理縮小に伴う製錬設備の稼働停止を通じた収益構造の抜本的見直しに加え、ReElement社への資本参加決定によるレアアース・レアメタルリサイクル分野への展開、伸銅品事業の生産体制最適化、高付加価値製品へのシフトといった施策を進めました。

これらは短期的な利益変動に左右されにくい、持続的な価値創出につながる取り組みであると考えています。

次のページをお願いします。

2026年
3月期
実績
(年間)

金属価格上昇や販売価格の適正化等による利益確保に加え、銅精鉱処理縮小等の抜本的構造改革を前倒しで実行し、ROICを大幅に改善

売上高 : 18,440億円 (前年比△1,180億円)
 営業利益 : 605億円 (前年比+233億円、在庫評価影響除く実力差+171億円)
 経常利益 : 975億円 (前年比+373億円、在庫評価影響除く実力差+291億円)
 当期純利益 : 405億円 (前年比+65億円)
 ROIC : 6.1% (前年比+1.9pt)
 期末配当 : 50円/株 (年間100円/株) を決議

2027年
3月期
予想
(年間)

直島製錬所の増強に伴う炉修期間伸長等の抜本的構造改革推進により利益は一時的に減益を伴うものの、ROICは更なる改善を見込む

売上高 : 19,900億円 (前年比+1,459億円)
 営業利益 : 360億円 (前年比△245億円、在庫評価影響除く実力差△115億円)
 経常利益 : 730億円 (前年比△245億円、在庫評価影響除く実力差△75億円)
 当期純利益 : 490億円 (前年比+84億円)
 ROIC : 6.7% (前年比+0.6pt)
 配当予想 : 年間116円/株 (前年比+16円/株)

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

5

これらの結果を受けた業績です。

2026年3月期は、抜本的構造改革を前倒しで実行することにより、ROICを大幅に改善させました。項目毎の内容としましては、売上高は、貴金属スライムの入荷減少による金の生産量の減少等により減収となりましたが、営業利益・経常利益は貴金属・製錬副産物価格の上昇や超硬製品の価格適正化、持分法利益の増加等により、前年を上回る水準を確保しました。

当期純利益は、構造改革に伴う特別損失の計上により経常利益に対する増益幅は縮小しましたが、構造改革を前倒しで推進したことで、ROICは前年から大きく改善しており、利益の質という点では確かな進展があったと評価しております。

こうした業績を踏まえ、期末配当金は、一株あたり50円、年間では100円とすることを、本日の取締役会で決議いたしました。

続いて、2027年3月期の見通しについてご説明いたします。

抜本的構造改革の推進により、来期は短期的に利益の調整局面を迎えますが、これは中長期の収益力・資本効率改善に向けた過程であり、ROICは更なる改善を見込んでおり、2028年に向けたROIC7%超の達成確度は、直島におけるリサイクル原料の処理能力増強や、PPCへの参画検討などを背景に、着実に高めることができると考えています。

足許における原料高や買鉱条件の悪化に対しては、引き続き販売価格の適正化により対応していく考えです。一方で、今期は、直島製錬所においてリサイクル原料の処理能力増強工事を実施することによる炉修期間の伸長等に伴い、利益は一時的に減益となる見通しです。これは、来期以降の収益改善につなげるための構造改革の一環であり、当社グループの収益構造転換において中長期的な企業価値向上に不可欠な取り組みと位置付けています。

配当につきましては、今般、中期経営戦略期間における株主還元方針を見直し、2027年3月期は、前年比16円増配の一株あたり年間116円を計画しています。

それでは、次ページ以降の業績詳細につきましては、CFOの平野よりご説明致します。

2026年3月期実績 連結業績概況

売上高 : 金の生産量減少により減収
営業利益 : 金属・製錬副産物価格の上昇および販売価格適正化により増益
当期純利益 : 抜本的構造改革に伴う特別損失を計上したものの、増益を確保
ROIC* : 金属価格上昇や販売価格の適正化等に伴う増益により1.9pt改善

(単位：億円)	25年3月期 実績	26年3月期 実績	増減		25年3月期 実績	26年3月期 実績	増減	
売上高	19,620	18,440	△1,180	ドル為替 (円/\$)	153	151	△2	
営業利益 (在庫評価影響除く)	371 (385)	605 (557)	+233 (+171)	ユーロ為替 (円/€)	164	175	+11	
受取配当金	201	234	+32	銅価格 (¢/lb)	425	491	+66	
持分法損益	175	212	+36	金価格 (\$/oz)	2,585	3,939	+1,354	
経常利益 (在庫評価影響除く)	602 (631)	975 (923)	+373 (+291)	パラジウム 価格 (\$/oz)	979	1,336	+358	
特別損益	△102	△357	△254	ROIC*	(%)	4.2	6.1	+1.9
親会社株主に帰属 する当期純利益	340	405	+65	ROE	(%)	5.1	5.7	+0.6

* ((経常利益 + ネット支払利息 - 持分法投資損益) × (1 - 実効税率) + 持分法投資損益) ÷ 投下資本

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

6

平野でございます。まず、2026年3月期通期実績についてご説明申し上げます。
冒頭の田中からの説明のとおり、2026年3月期は、抜本的構造改革を進める中で、事業の収益構造および資本効率の改善を最重要指標として取り組んだ一年でした。

その結果、売上高は減収となりましたが、営業利益・経常利益は増益、ROICは6.1%と前年比で大きく改善させることができました。

営業利益については、主に、金属価格や製錬副産物価格の上昇、販売価格の改定が増益に寄与しました。

また、経常利益についても、営業利益の増益に加え、ロスペランブレス銅鉱山からの配当増加や、マントベルデ銅鉱山をはじめとする持分法会社の収益改善により、前年比で増益となりました。一方で、原材料価格の変動に伴う在庫評価影響など、外部環境の影響も引き続き受けております。但し、在庫評価影響を除いた実力ベースでも、収益力は改善しております

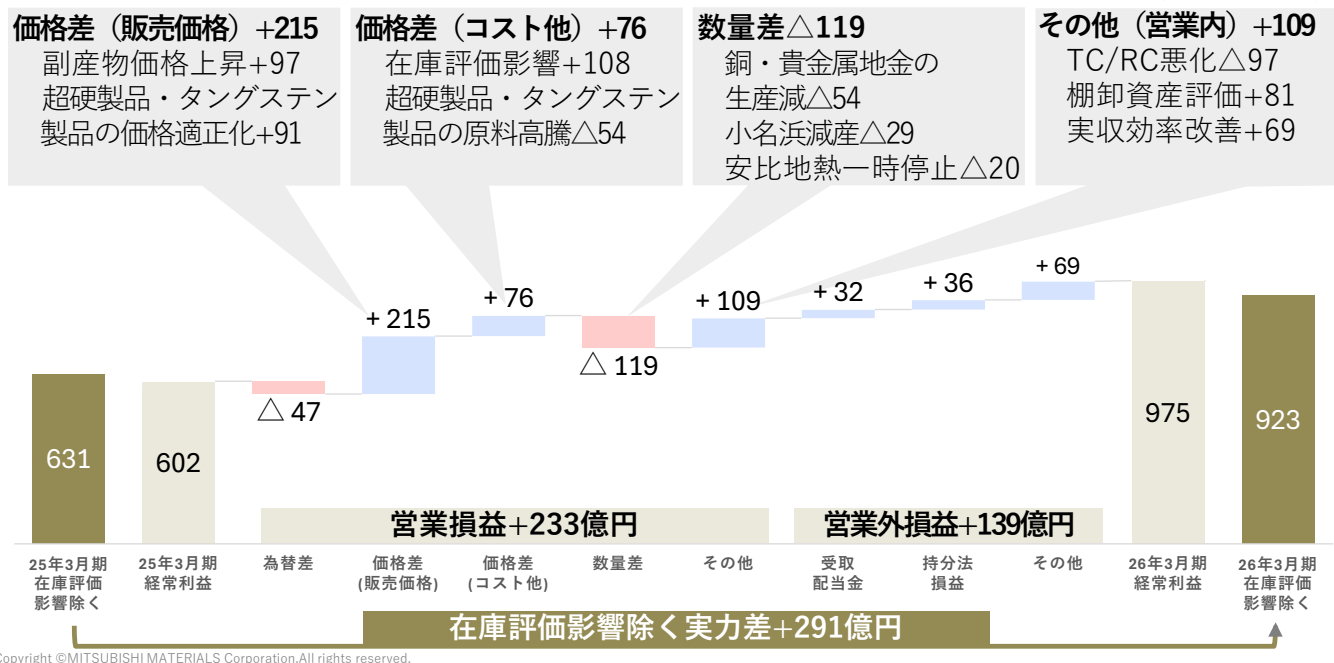
当期純利益につきましては、前年計上のPT. Smelting社持分法化に伴う持分変動利益の剥落、構造改革費用の計上など一時的な減益要因により、経常利益に対して増益幅は縮小いたしました。

資料7ページをご覧ください。

2026年3月期実績 利益増減要因内訳

営業利益 : 買鉱条件 (TC/RC) 悪化、超硬製品等の原料高騰を金属・製錬副産物価格の上昇、超硬製品等の販売価格適正化によりカバーし、増益
経常利益 : 受取配当金、持分法損益の増加に加え、外貨建て債権債務の為替差益の計上により増益

(単位: 億円)



Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

7

こちらは営業・経常利益の前年差について、増減要因を整理したものです。

営業利益は、前年同期比233億円増益の605億円となりました。

この前年比増益の主な要因は、「販売面の価格差」が最も大きく、前年同期比でプラス215億円です。金属事業における硫酸・パラジウム等の製錬副産物価格の上昇による増益97億円と超硬製品等の価格の適正化による増益91億円が主な内訳です。

これに次ぐ増益要因は、「コスト関連の価格差」であり、前年同期比でプラス76億円です。主に、銅加工事業における銅価上昇に伴う在庫評価影響（前年実額18億円の損失計上、当年実額90億円の利益計上）108億円が内訳です。

これら増益要因の一方で、銅・貴金属地金の生産減、小名浜製錬所の減産による生産量の減少、および、買鉱条件 (TC/RC) の悪化が減益要因となりましたが、このうち買鉱条件 (TC/RC) の悪化については、実収効率改善他でカバーいたしました。

経常利益につきましては、前年同期比で373億円増益の975億円となりました。

営業外損益としては、前年同期比で139億円の増益です。これは、出資先銅鉱山からの受取配当金の増加、持分法適用会社の収益改善が主な増益要因となっております。

なお、在庫評価影響を除く経常利益は、製錬副産物価格上昇と実収効率改善を主因として、前年同期比291億円増益の923億円となりました。

続きまして、8ページをご覧ください。

2026年3月期実績 利益増減要因内訳（セグメント別）

銅加工 コスト他 : 金属価格上昇による原材料の在庫評価影響+108
金属 数量差 : 銅・貴金属地金の生産減△54、小名浜製錬の減産影響△29
金属 販売価格 : 製錬副産物価格の上昇+97
加工 販売価格 : 超硬製品・タングステン製品の価格適正化+91 (単位：億円)

	25年 3月期 実績	26年 3月期 実績	増減	増減要因								
				営業損益					営業外損益			
				為替差	価格差 (販売価格)	価格差 (コスト他)	数量差	その他	受取 配当金	持分法 損益	その他	
金属	411	570	+158	△50	+99	+16	△111	+57	+32	+59	+55	
高機能	31	200	+169	△1	+21	+116	+5	+11	△0	+9	+6	
銅加工	△10	162	+172	△0	+19	+128	+8	+12	△0	-	+4	
電子材料	49	54	+4	△1	+2	△11	△3	+6	+0	+9	+1	
加工	85	149	+64	+4	+94	△56	+17	+14	+0	+5	△16	
再生可能 エネルギー	26	8	△18	-	△0	-	△13	+0	-	△2	△2	
その他*	47	46	△1	△0	-	-	△18	+25	+0	△36	+27	
合計（経常利益）	602	975	+373	△47	+215	+76	△119	+109	+32	+36	+69	

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved. *連結調整額含む

8

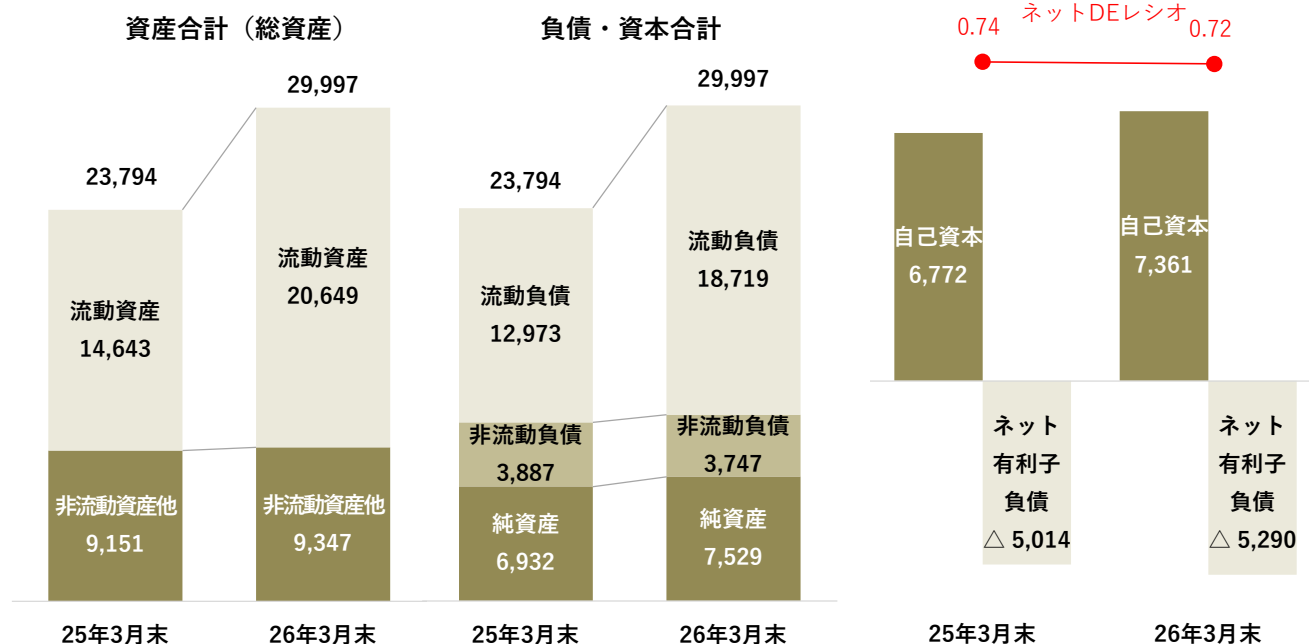
こちらには、セグメント別の状況を整理しております。
 金属事業では、銅・貴金属地金の生産減、構造改革の一環として実施した小名浜製錬所の銅精鉱処理の減産を主因とした「数量差」における減益が大きく出ておりますが、「販売面の価格差」に示される製錬副産物価格の上昇が下支えとなりました。
 銅加工事業では、需要環境としては概ね横ばいでしたが、前年同期比での銅価格上昇影響である在庫評価影響等を主因として営業利益が増加しました。
 加工事業では、超硬製品・タングステン製品の原料価格高騰による減益が出ておりますが、販売価格の適正化により挽回し、営業利益が増加しました。

続きまして、9ページをご覧ください。

2026年3月期実績 連結財政状態

総資産 : 金属価格上昇による貸付金地金・棚卸資産増加により増加
ネットDEレシオ : 財務規律を意識した運営を継続し、前期末同水準を維持
自己資本比率 : 24.5% (預かり金地金を除く42%)

(単位: 億円)



Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

9

財政状態です。総資産は金属価格の上昇等に伴う運転資本の増加により増加しておりますが、ネットDEレシオにつきましては、財務規律を意識した運営を継続し、前期末同水準を維持しております。

一方の自己資本比率は、3月末は24.5%とやや低い水準となりました。

こちらも金属価格の上昇影響に伴い、マイゴールドパートナー事業関連の「預り金地金」が増加した影響が大きく、その影響を除いた体質ベースでは42%と健全性を維持しております。

10ページをご覧ください。

2026年3月期実績 報告セグメントの組み替え

2026年4月1日の組織再編により、セグメント名称およびLuvata、タングステン、資源事業が計上される事業区分を組み替え

(単位：億円)

旧セグメント		新セグメント						
		マテリアル領域		プロダクト領域		資源	再生可能エネルギー	その他*
		製錬・資源循環	伸銅品	超硬製品	高機能製品			
金属	570	283				286		1
高機能製品	銅加工	162	139		5	Luvata		18
	電子材料	54			54			
加工	149	7	タングステン	151				△9
再生可能エネルギー	8						8	
その他*	30	6	3		△4			25
合計（経常利益）	975	296	142	151	55	286	8	35

*その他事業、連結調整額を含む

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

10

2026年4月1日の組織再編に基づく報告セグメントの変更についてです。
 マネジメントアプローチに基づき、経営管理および投資判断の実態に即した形に見直すものであり、比較可能性について資料内で補足しております。
 今後は、このセグメント区分に基づき、収益性・資本効率の改善を管理してまいります。
 以上が、2026年3月期実績のご説明となります。
 続きまして、資料11ページより、2027年3月期の業績予想についてご説明いたします。

2027年3月期予想 連結業績概況

売上高 : 金属価格の上昇、銅プレミアムの改定により増収
営業利益 : 伸銅品の在庫評価影響や直島増強工事に伴う炉修期間伸長により減益
当期純利益 : 前年の抜本的構造改革に伴う特別損失の剥落により増益
ROIC*1 : 事業統合影響の織り込み等、投下資本減少により0.6pt改善

(単位：億円)							
	26年3月期 実績	27年3月期 予想	増減		26年3月期 実績	27年3月期 予想	増減
売上高	18,440	19,900	+1,459	ドル為替 (円/\$)	151	150	△1
営業利益 (在庫評価影響除く)	605 (557)	360 (442)	△245 (△115)	ユーロ為替 (円/€)	175	180	+5
受取配当金	234	304	+69	銅価格 (¢/lb)	491	500	+9
持分法損益	212	234	+22	金価格 (\$/oz)	3,939	4,000	+61
経常利益 (在庫評価影響除く)	975 (923)	730 (848)	△245 (△75)	パラジウム 価格 (\$/oz)	1,336	1,100	△236
特別損益	△357	20	+377	感応度*2			影響額
親会社株主に帰属 する当期純利益	405	490	+84	ドル為替	営業利益±1円/\$		6.1
				ユーロ為替	営業利益±1円/€		1.5
ROIC*1 (%)	6.1	6.7	+0.6	銅価格	(a)営業利益±10¢/lb		4.8
ROE (%)	5.7	6.8	+1.1		(b)営業外損益±10¢/lb		15.5
					(a+b)経常利益±10¢/lb		20.3

*1 ((経常利益 + ネット支払利息 - 持分法投資損益) × (1 - 実効税率) + 持分法投資損益) ÷ 投下資本

*2感応度に在庫評価影響は含まない

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

11

売上高は、金属価格、銅プレミアムの改定により増収を見込む一方で、営業利益・経常利益は、前年比では一時的な減益を想定しております。

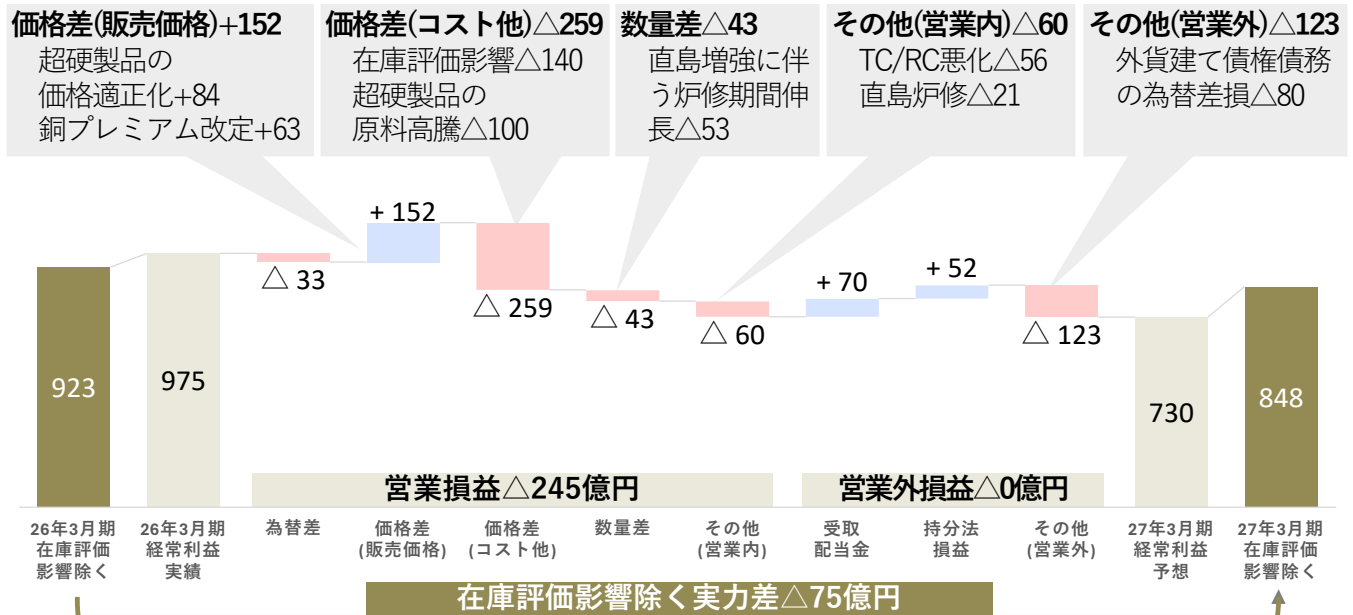
これは、直島製錬所のリサイクル原料増処理を図るための炉修期間の伸長など、抜本的構造改革を進める過程における短期的な生産面での落ち込みによる影響です。構造的な収益力低下を意味するものではなく、ROICは6.7%と更なる改善を見込んでおり、当社としては、資本効率の改善を図るための構造改革を着実に進展させている点をご理解いただけるものと考えております。

12ページをご覧ください。

2027年3月期予想 利益増減要因内訳

営業利益：超硬製品の原料高騰、買鉱条件（TC/RC）悪化を販売価格適正化、銅プレミアム改定で補うも、在庫評価影響や炉修伸長により減益の見通し
経常利益：受取配当金、持分法利益増加も外貨建て債権債務の為替差損の計上等により減益の見込み

（単位：億円）



Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

12

こちらが、業績見通しについて、前年比の内訳を整理したものです。

営業利益ベースでは前年比△245億円の減益を見込んでおりますが、外部事業環境の悪化、つまり買鉱条件（TC/RC）の悪化や原材料価格高については、銅プレミアムの改定や超硬製品の価格適正化で補う計画としております。一方で、在庫評価影響や直島製錬所の増強工事に伴う炉修期間の伸長などが営業利益を押し下げる見通しですが、構造改革における一時的な要因であり、資本効率の改善に向けて、共同買鉱スキームへの参画、その他事業再編を通じた取り組みを継続させてまいります。

なお、在庫評価影響を除く経常利益は、前年比75億円の減益の848億円を見込んでおります。

2027年3月期予想 利益増減要因内訳（セグメント別）

新セグメント

伸銅品 コスト他 : 前期計上の在庫評価影響利益の反動減△140
 超硬製品 コスト他 : 原料高騰に伴うコスト増加△100
 超硬製品 販売価格 : 販売価格の適正化+84
 製錬資源循環 数量差 : 直島増強に伴う炉修期間伸長に伴う生産減△53 (単位: 億円)

	26年 3月期 実績	27年 3月期 予想	増減	増減要因							
				営業損益					営業外損益		
				為替差	価格差 (販売価格)	価格差 (コスト他)	数量差	その他	受取 配当金	持分法 損益	その他
マテリアル領域	448	215	△232	△33	+50	△149	△36	△42	△0	+21	△43
製錬・資源循環	296	213	△82	△33	+49	△13	△56	△18	△0	+21	△31
伸銅品	142	7	△135	-	+0	△135	+19	△9	-	-	△11
プロダクト領域	206	182	△24	-	+100	△103	+14	△2	△0	△10	△22
超硬製品	151	129	△22	-	+84	△99	△9	+16	△0	-	△13
高機能製品	55	53	△1	-	+16	△3	+24	△19	△0	△10	△8
資源	286	337	+51	-	-	-	-	△4	+72	+17	△33
再生可能 エネルギー	8	14	+6	-	+2	-	+13	△10	-	+1	△0
その他*	25	△20	△45	-	-	△7	△34	△1	△1	+23	△23
合計（経常利益）	975	730	△245	△33	+152	△259	△43	△60	+70	+52	△123

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved. *その他事業、連結調整額含む

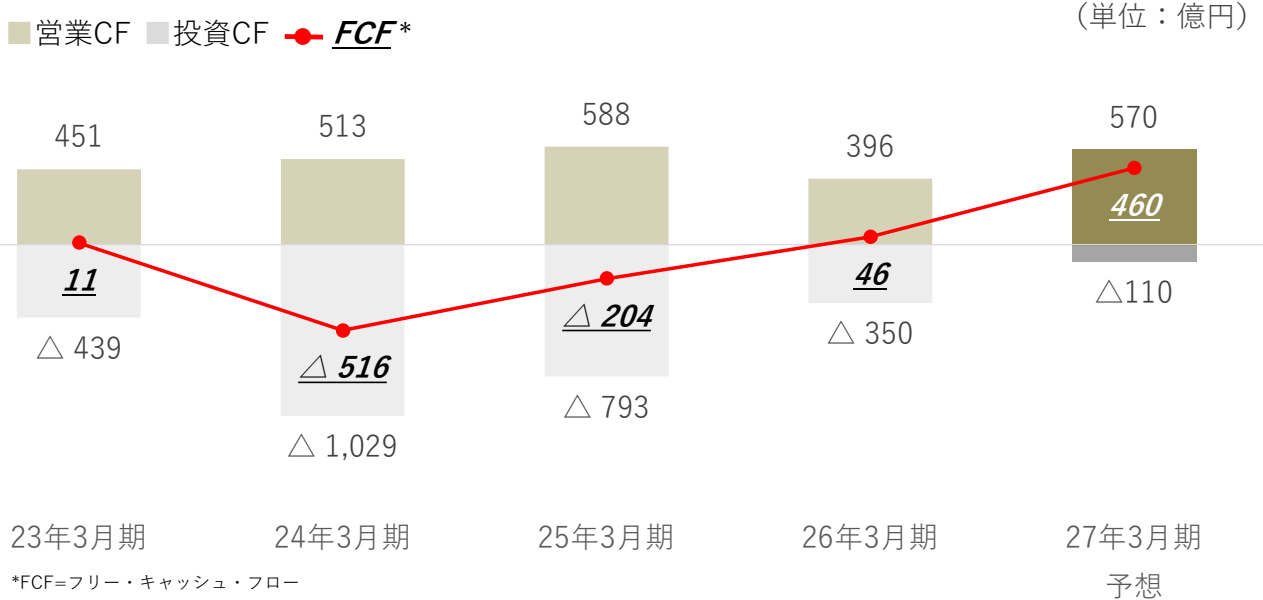
13

続く13ページには、セグメント別の業績見通しを示しております。前年比の利益変動としては、マテリアル領域の「伸銅品事業」と「製錬・資源循環事業」の変動が大きくなっています。伸銅品事業については、「コスト関連の価格差」で前期計上の原材料の在庫評価影響の反動が主因で営業利益が減少しています。超硬製品事業については、原料コスト影響による減益が大きく出ていますが、販売価格について適時、適正化を図り、挽回する計画です。製錬・資源循環事業では、直島の増強に伴う炉修期間伸長による生産減などが主因となって、営業利益が減少する見通しです。

続きまして、14ページをご覧ください。

キャッシュフロー

2026年3月期実績：FCF*は、主に金属価格上昇により運転資本が増加したが、
経常利益の増加により46億円を確保（前年同期比+251億円）
2027年3月期予想：FCF*は、事業売却等により460億円を見込む
（前年同期比+413億円）



Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

14

キャッシュフローの推移です。

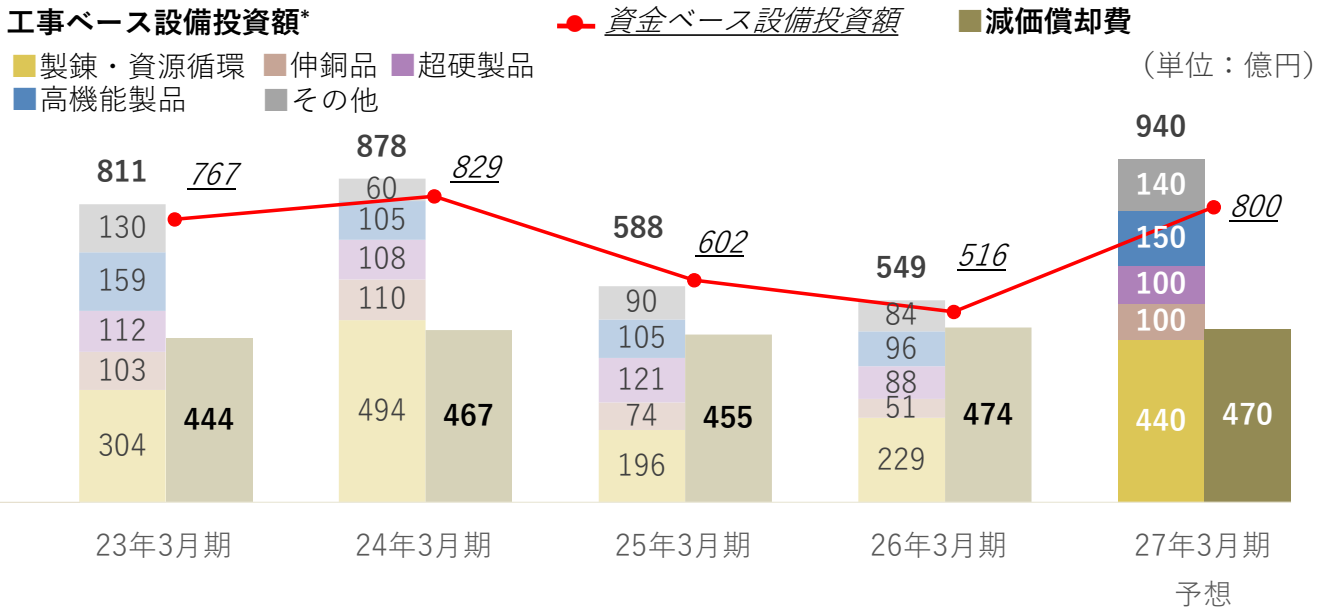
2026年3月期のフリーキャッシュフローは、主に金属価格の上昇により大幅な運転資本の増加がありました。フリーキャッシュフローは黒字を確保しました。

より一層、成長と財務健全性を両立するための財務規律を意識した運営を徹底し、キャッシュ創出力の強化を図ってまいります。

続く15ページは、減価償却費及び設備投資額の推移です。

2026年3月期実績：機動的に優先順位を見極め工事ベースで549億円
(前年同期比△38億円)

2027年3月期予想：二次原料製錬拡大等の実行により工事ベースで940億円
(前年同期比+390億円)の見込み



Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

*セグメント別の設備投資額は、新セグメント組み換え後の数値を記載

2027年3月期について、工事ベースでは増加を見込みますが、これは主に、中期経営戦略で目指すリサイクル原料製錬へと軸足を移すことにより将来の利益成長と効率性改善を図るための成長投資の実行によるものです。

引き続き投資と収益性のバランスを重視し、ROICの向上につなげてまいります。

最後に16ページをご覧ください。

株主還元方針

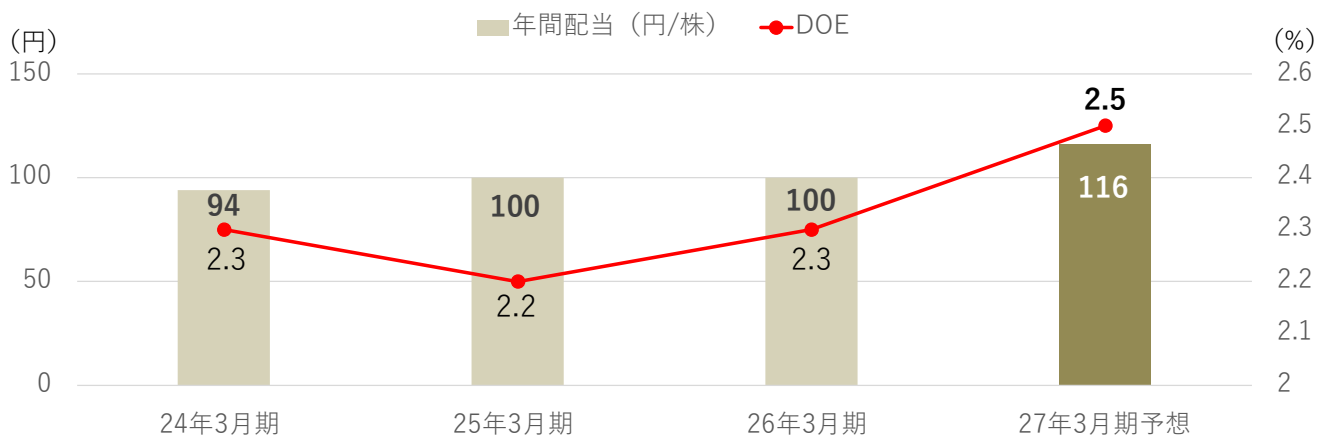
中期経営戦略（2026~2028年度）期間における株主還元方針

DOE2.5%*を目途に、構造改革期においても安定的な株主還元を実施。

- ・ キャッシュフローと財務規律を踏まえ、成長投資と還元の両立を図る
- ・ 自己株式取得は、CF状況・株価水準・財務規律を勘案し機動的に検討

2027年3月期における配当予想

前期比+16円/株の増配の116円/株（中間58円、期末58円）を計画



Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

*株主資本配当率（年間配当総額/前期末の株主資本）

16

株主還元方針についてです。

冒頭において田中からも言及がありましたとおり、今般、株主還元方針を見直しています。既にお伝えのとおり、2026年から2028年度の中期経営戦略期間につきましては、構造改革を推し進めます。ただ、こうした期間においてもDOE 2.5%を目途に、安定的・継続的な還元を行うことを方針といたします。

また、自己株式の取得については、キャッシュフロー、株価水準および目指す財務健全性の水準の達成確度などを総合的に勘案し、機動的に検討してまいります。

こうした新たな還元方針に基づきまして、2027年3月期の配当予想は、前年比16円増配の一株当たり116円を計画しております。

私からのご説明は以上でございます。

参考情報

金属

買鉱条件（TC/RC）悪化を製錬副産物価格の上昇で相殺し増益

項目	25年3月期 実績	26年3月期 実績	増減
売上高	億円 14,336	12,356	△1,979
営業利益 (在庫評価影響除く)	億円 231 (226)	242 (284)	+10 (+57)
経常利益 (在庫評価影響除く)	億円 411 (422)	570 (608)	+158 (+186)
ROIC (WACC)	% 7.2 (7.1)	9.8 (7.1)	+2.6 (-)

25年3月期経常利益	411
為替差	△50
価格差（販売価格）	+99
価格差（コスト他）	+16
数量差	△111
その他（営業内）	+57
受取配当金	+32
持分法損益	+59
その他（営業外）	+55
26年3月期経常利益	570

銅加工

金属価格の上昇に伴う原材料の在庫評価影響により増益

項目	25年3月期 実績	26年3月期 実績	増減
売上高	億円 4,336	5,093	+756
営業利益 (除く在庫評価影響)	億円 30 (49)	199 (108)	+168 (+59)
経常利益 (除く在庫評価影響)	億円 △10 (7)	162 (71)	+172 (+64)
ROIC (WACC)	% 0.8 (3.1)	5.4 (3.1)	+4.6 (-)

25年3月期経常利益	△10
為替差	△0
価格差（販売価格）	+19
価格差（コスト他）	+128
数量差	+8
その他（営業内）	+12
受取配当金	△0
持分法損益	-
その他（営業外）	+4
26年3月期経常利益	162

電子材料

シール製品等の減販により営業減益、
持分法利益の増加により経常増益

項目		25年3月期 実績	26年3月期 実績	増減
売上高	億円	779	840	+61
営業利益	億円	32	26	△6
経常利益	億円	49	54	+4
ROIC (WACC)	%	5.2 (8.3)	5.4 (8.3)	+0.2 (-)

25年3月期経常利益	49
為替差	△1
価格差（販売価格）	+2
価格差（コスト他）	△11
数量差	△3
その他（営業内）	+6
受取配当金	+0
持分法損益	+9
その他（営業外）	+1
26年3月期経常利益	54

加工

H.C.Starck社の連結化に伴い売上増加、
原料高騰を販売価格適正化で相殺し増益

項目		25年3月期 実績	26年3月期 実績	増減
売上高	億円	1,488	2,347	+859
営業利益	億円	88	164	+75
経常利益	億円	85	149	+64
ROIC (WACC)	%	3.1 (7.3)	5.6 (7.3)	+2.5 (-)

25年3月期経常利益	85
為替差	+4
価格差（販売価格）	+94
価格差（コスト他）	△56
数量差	+17
その他（営業内）	+14
受取配当金	+0
持分法損益	+5
その他（営業外）	△16
26年3月期経常利益	149

製錬・資源循環

TC/RC悪化を銅プレミアム改定で相殺
するも増強工事影響により減益の見込み

項目	26年3月期 実績	27年3月期 予想	増減
売上高 億円	13,290	14,288	+998
営業利益 (在庫評価影響除く) 億円	299 (341)	227 (260)	△71 (△81)
経常利益 (在庫評価影響除く) 億円	296 (334)	213 (282)	△82 (△51)
ROIC (WACC) %	6.4 (5.9)	11.2 (5.9)	+4.8 (-)

26年3月期経常利益	296
為替差	△33
価格差（販売価格）	+49
価格差（コスト他）	△13
数量差	△56
その他（営業内）	△18
受取配当金	△0
持分法損益	+21
その他（営業外）	△31
27年3月期経常利益	213

伸銅品

前期計上の在庫評価影響利益の反動減に
より減益の見込み

項目	26年3月期 実績	27年3月期 予想	増減
売上高 億円	3,581	3,879	+298
営業利益 (在庫評価影響除く) 億円	152 (62)	28 (77)	△124 (+15)
経常利益 (在庫評価影響除く) 億円	142 (52)	7 (56)	△135 (+4)
ROIC (WACC) %	6.4 (3.1)	1.1 (3.1)	△5.3 (-)

26年3月期経常利益	142
為替差	-
価格差（販売価格）	+0
価格差（コスト他）	△135
数量差	+19
その他（営業内）	△9
受取配当金	-
持分法損益	-
その他（営業外）	△11
27年3月期経常利益	7

超硬製品

販売価格適正化を上回る原料価格高騰の影響により減益の見込み

項目	26年3月期実績	27年3月期予想	増減
売上高 億円	1,472	1,578	+106
営業利益 億円	142	134	△8
経常利益 億円	151	129	△22
ROIC (WACC) %	6.8 (9.8)	6.7 (9.8)	△0.1 (-)

26年3月期経常利益	151
為替差	-
価格差（販売価格）	+84
価格差（コスト他）	△99
数量差	△9
その他（営業内）	+16
受取配当金	△0
持分法損益	-
その他（営業外）	△13
27年3月期経常利益	129

高機能製品

AI向け製品の増販などにより営業増益の見込み

項目	26年3月期実績	27年3月期予想	増減
売上高 億円	2,345	2,588	+243
営業利益 億円	55	73	+17
経常利益 億円	55	53	△1
ROIC (WACC) %	3.7 (7.0)	3.6 (7.0)	△0.1 (-)

26年3月期経常利益	55
為替差	-
価格差（販売価格）	+16
価格差（コスト他）	△3
数量差	+24
その他（営業内）	△19
受取配当金	△0
持分法損益	△10
その他（営業外）	△8
27年3月期経常利益	53

UBE三菱セメント社概況

UBE三菱セメント社連結損益計算書 (単位：億円)

項目		25年3月期 実績	26年3月期 実績
売上高	国内事業	3,770	3,723
	海外事業	1,840	1,659
	計	5,610	5,383
営業利益	国内事業	175	258
	海外事業	332	242
	計	508	500
経常利益		528	529
親会社株主に帰属 する純利益		302	240

当社持分法投資損益

持分法投資損益	140	104
---------	-----	-----

- 国内事業**：2026年3月期は、セメント販売数量の減少や電力事業における隔年の定修影響があったもののセメントや生コン、資源事業における値上げ効果及び熱エネルギー価格低下が寄与し、国内事業全体では前年度比で減収増益
- 海外事業**：2026年3月期は、米国事業における金利高止まり等を背景とした需要低迷に伴うセメント、生コンの販売数量減少に加え、定修費用の期ズレ負担といった一過性のコスト増の発生、豪州石炭事業における販売価格の下落により、前年度比で減収減益

UBE三菱セメント社諸元

項目		25年3月期 実績	26年3月期 実績
セメント (国内総需要)	万 t	3,265	3,053
セメント (国内)販売数量	万 t	775	738
セメント (米国)販売数量	万st	161	144
生コン (米国)販売数量	万cy	619	550
一般炭価格 (参考指標)	\$/ t	130	109
ドル為替	円/\$	153	151

※上記一般炭価格は、実際の調達価格とは異なる。

(参考) 26年3月末 連結貸借対照表 (単位：億円)

総資産	8,518	有利子負債	1,963	自己資本	3,777
自己資本比率	44.3%	ネットD/Eレシオ	0.21		

四半期業績の推移 セグメント別

旧セグメント

(単位：億円)

項目	25年3月期								26年3月期							
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期		
金属	売上高	3,900	3,424	7,324	3,625	3,385	7,011	14,336	2,887	2,591	5,479	3,068	3,808	6,877	12,356	
	営業利益	88	136	224	△1	8	7	231	△68	79	11	39	190	230	242	
	経常利益	121	58	180	237	△6	231	411	△54	107	53	293	223	517	570	
高機能製品*	売上高	1,323	1,288	2,612	1,243	1,248	2,491	5,103	1,301	1,317	2,619	1,524	1,714	3,238	5,858	
	営業利益	23	△33	△10	35	31	66	56	1	22	24	74	111	185	210	
	経常利益	20	△43	△23	31	23	54	31	△1	18	16	77	106	184	200	
銅加工	売上高	1,130	1,098	2,229	1,049	1,057	2,107	4,336	1,103	1,133	2,236	1,335	1,520	2,856	5,093	
	営業利益	17	△32	△14	19	25	45	30	△2	22	20	67	111	179	199	
	経常利益	8	△42	△34	10	13	23	△10	△9	11	2	58	101	160	162	
電子材料	売上高	198	189	388	196	194	390	779	216	201	418	206	215	421	840	
	営業利益	7	1	9	15	8	23	32	5	1	7	9	10	19	26	
	経常利益	14	1	16	20	12	33	49	9	8	17	21	15	36	54	
加工	売上高	381	364	746	363	378	741	1,488	529	540	1,070	586	690	1,277	2,347	
	営業利益	29	38	68	0	20	20	88	30	25	56	48	59	107	164	
	経常利益	34	28	63	3	18	21	85	23	20	43	47	59	106	149	
再生可能エネルギー	売上高	23	21	45	18	19	38	83	13	8	22	20	19	39	62	
	営業利益	9	7	16	3	3	6	23	3	△2	1	5	3	8	10	
	経常利益	12	5	18	4	3	7	26	1	△9	△8	3	12	16	8	
その他	売上高	350	376	727	406	443	849	1,576	344	345	690	323	385	709	1,400	
	営業利益	6	15	21	17	15	32	54	5	15	20	5	16	22	42	
	経常利益	40	49	89	58	37	95	185	38	45	83	45	19	64	148	
調整額	売上高	△842	△717	△1,559	△716	△691	△1,407	△2,967	△764	△818	△1,582	△977	△1,023	△2,001	△3,583	
	営業利益	△28	△16	△45	△8	△30	△38	△83	0	△5	△4	△9	△50	△60	△65	
	経常利益	△43	△35	△79	△16	△41	△58	△137	△8	△13	△22	△22	△58	△80	△102	
合計	売上高	5,137	4,758	9,895	4,941	4,783	9,724	19,620	4,314	3,985	8,299	4,545	5,595	10,141	18,440	
	営業利益	128	147	275	47	48	95	371	△26	135	109	164	331	495	605	
	経常利益	186	62	249	319	33	353	602	△1	168	167	444	363	808	975	

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved. *高機能製品合計額には、高機能製品共通として銅加工事業、電子材料事業間取引などを含めて記載 23

セグメント別内訳

新セグメント

(単位：億円)	26年3月期 実績(a)			27年3月期 予想(b)			増減 (b-a)		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
マテリアル領域	14,270	461	448	15,498	250	215	+1,228	△211	△232
製錬・資源循環	13,290	299	296	14,288	227	213	+998	△71	△82
伸銅品	3,581	152	142	3,879	28	7	+298	△124	△135
プロダクト領域	3,818	198	206	4,167	207	182	+349	+8	△24
超硬製品	1,472	142	151	1,578	134	129	+106	△8	△22
高機能製品	2,345	55	55	2,588	73	53	+243	+17	△1
資源	-	△30	286	-	△34	337	-	△4	+51
再生可能エネルギー	62	10	8	78	15	14	+16	+5	+6
その他*	290	△35	25	153	△79	△20	△136	△43	△45
合計	18,440	605	975	19,900	360	730	+1,459	△245	△245

*その他にはその他事業、連結調整額を含む

諸元 1/2

主要製品の生産・販売動向

項目	25年3月期								26年3月期								27年3月期
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	通期予想		
電気銅	生産量 千 t	112	102	214	98	85	183	398	81	101	181	86	87	174	355	317	
	販売量 千 t	102	93	195	88	79	167	362	77	89	166	83	85	167	333	289	
金	生産量 t	9	9	19	10	10	19	38	4	4	8	4	4	8	16	12	
	販売量 t	9	9	19	10	10	19	38	4	4	8	4	4	8	16	12	
銀	生産量 t	81	75	156	69	75	144	301	49	53	102	58	57	115	217	198	
	販売量 t	82	74	156	69	76	145	302	47	55	102	55	60	115	217	198	
伸銅品	販売量 千 t	29	29	58	31	29	60	117	31	31	62	34	32	66	127	131	

金属価格・為替の推移

項目	25年3月期								26年3月期								27年3月期
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	通期予想		
ドル為替レート 円/\$	156	149	153	152	153	153	153	145	147	146	154	157	156	151	150		
ユーロ為替レート 円/€	168	164	166	163	161	162	164	164	172	168	179	184	182	175	180		
銅価格(LME) ¢/lb	442	417	430	416	424	420	425	432	444	438	504	583	543	491	500		
金価格 \$/oz	2,338	2,476	2,407	2,662	2,862	2,762	2,585	3,280	3,454	3,367	4,145	4,877	4,511	3,939	4,000		
パラジウム価格 \$/oz	972	970	971	1,011	961	986	979	990	1,171	1,081	1,469	1,715	1,592	1,336	1,100		

諸元 2/2

鉱山配当額の推移

項目	25年3月期								26年3月期								27年3月期
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	通期予想		
Los Pelambres 配当額 億円	-	-	-	137	22	160	160	-	-	-	181	2	183	183	253		
Escondida 配当額 億円	8	-	8	27	-	27	36	22	-	22	19	4	23	46	48		
鉱山配当計 配当額 億円	8	-	8	164	22	187	196	22	-	22	200	6	207	229	302		

持分法投資損益の推移

(単位：億円)

項目	当社持分	25年3月期								26年3月期								27年3月期
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	通期予想		
Mantoverde S.A.	30%	△2	△4	△6	6	3	10	3	3	3	7	21	18	39	47	70		
その他	-	47	35	82	56	32	89	171	38	45	83	49	30	80	164	164		
合計		45	31	76	63	36	99	175	42	49	91	71	49	120	212	234		

原材料の在庫評価影響 1/2

旧セグメント

(単位：億円)		25年3月期							26年3月期						
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期
金属	営業利益	88	136	224	△1	8	7	231	△68	79	11	39	190	230	242
	在庫評価影響	+63	△36	+26	△29	+7	△22	+4	△44	△10	△54	+10	+1	+12	△42
	在庫評価影響を 除く営業利益	24	172	197	28	1	29	226	△23	90	66	29	189	218	284
	経常利益	121	58	180	237	△6	231	411	△54	107	53	293	223	517	570
	在庫評価影響	+66	△58	+7	△24	+5	△18	△10	△49	△8	△58	+15	+4	+20	△38
	在庫評価影響を 除く経常利益	55	117	173	261	△12	249	422	△4	116	111	277	219	496	608
銅加工	営業利益	17	△32	△14	19	25	45	30	△2	22	20	67	111	179	199
	在庫評価影響	+1	△44	△42	+10	+13	+23	△18	△6	+8	+2	+60	+27	+88	+90
	在庫評価影響を 除く営業利益	15	11	27	9	12	21	49	3	14	18	7	83	90	108
	経常利益	8	△42	△34	10	13	23	△10	△9	11	2	58	101	160	162
	在庫評価影響	+1	△44	△42	+10	+13	+23	△18	△6	+8	+2	+60	+27	+88	+90
	在庫評価影響を 除く経常利益	6	1	8	△0	△0	△0	7	△3	3	△0	△1	73	71	71
全社 合計	営業利益	128	147	275	47	48	95	371	△26	135	109	164	331	495	605
	在庫評価影響	+65	△80	△15	△19	+20	+1	△14	△50	△2	△52	+71	+29	+100	+47
	在庫評価影響を 除く営業利益	62	228	291	66	27	94	385	24	138	162	93	301	394	557
	経常利益	186	62	249	319	33	353	602	△1	168	167	444	364	808	975
	在庫評価影響	+68	△102	△34	△13	+19	+5	△29	△55	△0	△56	+75	+32	+108	+52
	在庫評価影響を 除く経常利益	118	165	283	333	14	347	631	54	168	223	368	331	700	923

原材料の在庫評価影響 2/2

新セグメント

(単位：億円)		26年3月期							27年3月期
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	通期予想
製錬・資源循環	営業利益	△62	91	29	59	211	270	299	227
	在庫評価影響	△44	△10	△54	+10	+1	+12	△42	△33
	在庫評価影響を除く営業利益	△18	102	84	48	209	257	341	260
	経常利益	△74	93	19	68	208	277	296	213
	在庫評価影響	△49	△8	△58	+15	+4	+20	△38	△68
	在庫評価影響を除く経常利益	△24	101	77	52	203	256	334	282
伸銅品	営業利益	△4	11	7	57	87	145	152	28
	在庫評価影響	△6	+8	+2	+60	+27	+88	+90	△49
	在庫評価影響を除く営業利益	1	3	5	△3	59	56	62	77
	経常利益	△6	8	1	56	84	141	142	7
	在庫評価影響	△6	+8	+2	+60	+27	+88	+90	△49
	在庫評価影響を除く経常利益	△0	+0	△0	△3	56	53	52	56
全社合計	営業利益	△26	135	109	164	331	495	605	360
	在庫評価影響	△50	△2	△52	+71	+29	+100	+47	△82
	在庫評価影響を除く営業利益	24	138	162	93	301	394	557	442
	経常利益	△1	168	167	444	364	808	975	730
	在庫評価影響	△55	△0	△56	+75	+32	+108	+52	△118
	在庫評価影響を除く経常利益	54	168	223	368	331	700	923	848

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

コスト競争力強化

- ・ 中経2030では、2026年3月までに累計約90億円のコスト削減を実施する計画
- ・ 3ヵ年累計で88億円の目標に対し、235億円のコスト削減を達成

(単位：億円)

コストダウン計画		24年3月期		25年3月期		26年3月期	
		中経計画	実績	中経計画	実績	中経計画	実績
金属	・ ヘッジコスト、スラグコスト、エネルギーコスト削減	0	47	0.1	100	26	125
高機能製品	銅加工 ・ 歩留改善、固定費削減（労務費・外部委託費等） 電子材料 ・ 固定費削減（労務費等）、生産性の向上	17	16	24	30	32	49
加工	・ 製造原価低減 ・ 子会社でのコストダウン	9	21	19	37	30	61
再エネ	・ 発電所運転経費削減 ・ 発電所の自動運転による運営効率化等	0	0.3	0.2	0.3	0.2	1
事業合計		26	84	44	168	88	235

お問合せ先

三菱マテリアル株式会社
IR室

〒100-8117 東京都千代田区丸の内3-2-3 丸の内二重橋ビル

ml-mmccir@mmc.co.jp

<https://www.mmc.co.jp/corporate/ja/index.html>

<お知らせ>

最新の適時開示など、当社IRに関する情報のメール配信サービスをご希望の方は、
以下のURLからご登録ください

<https://ir.mmc.co.jp/ja/ir/irmail.html>

<免責事項>

本資料における見通しは、本資料発表日時点で入手可能な情報により当社が判断したものです。
実際の業績は様々なリスク要因や不確実な要素により、本資料業績予想と大きく異なる可能性があります。
本資料に掲載されている内容・写真・図表などの無断転載を禁止します。